

# 第10回 日本外来臨床精神医学会

The 10th Annual Meeting of The Japanese Society of Clinical Outpatient Psychiatry (JCOP)

## 学術大会 プログラム

日時 ● 平成22年2月21日(日)  
場所 ● 東京医科歯科大学  
5号館 4F 特別講堂



日本外来臨床精神医学会

The Japanese Society of Clinical Outpatient Psychiatry (JCOP)

精神科専門医制度による研修ポイント（C群）を申請致します  
試験合格証をお持ちの方は、必ずご持参下さい。

～ JCOPはC群：4時間以上30点～

ポイントを取得するには、会期の7割以上のご参加が必要です。  
部分的なご参加ではポイントに加算されませんので、ご注意ください。

## 第10回日本外来臨床精神医学会(JCOP)学術大会に際して

平成22年2月、本学会は設立10年を迎え、記念すべき第10回大会の開催の運びになりました。今学会会長は、本学会創立以来関わり、発展に貢献してこられた何人かの若手メンバーの代表格であります里村淳富士見メンタルクリニック院長であります。このことは、平成12年(2001年)に外来臨床精神医学懇話会として発足して第1回大会を開催して以来、本学会がその歴史の新しい充実期に進み、さらに発展することを意味します。

この間の歴史に関しては、別に前理事長松下昌雄先生が詳しく述べられます。

第1回発足の大会には、不肖私は、日本精神神経学会理事長として創立の祝辞を申し述べさせて頂きました。そのうち私も本学会メンバーに加えて頂き、さらに昨年2009年に、理事長に選任されることになりました。この10年間に本学会は、初期の専門医資格取得に備えての勉強会に始まり、年に数回の研究会や、ケースカンファレンスを重ねて、最新の精神医学の知識や、実地臨床の研鑽に努めて参りましたのは皆様ご承知の通りであります。なにしろ本学会メンバーは、理事長の私が申すのもどうかと思いますが、大変勉強好きであります。とくにケースカンファレンスは、じっくり時間をかけて症例を語り、それについての質疑や意見の交換は、自由闊達で、会員が一人一人の小さい“蛸壺”から出て視野を広げ、和気藹々のうちに親しくなっていく集まりです。

またここ数年は、臨床心理の方々や、臨床薬剤師の方々、製薬会社の技術陣も参加して頂くようになって、ほかに例を見ない、易しいようでありながら深い内容の場になっている、と私は密かに思っております。

今学会は、里村会長のお考えで「社会の変化とこころの病」が基本テーマです。変動きわまりない現代社会に翻弄されている人びとの心を支える、外来臨床医が痛感している問題意識を考察する試みで、まさに時宜にかなっていると申せましょう。是非多くの会員のご参加をお待ちしておりますが、お近くの会員でない先生方にもお声をかけて頂くようお願い申し上げます。

皆様そろって本学会の新しい時代へ歩を進めようではありませんか。

本学会の企画、準備にあたって頂いた、理事、会員、事務局の方々に厚く御礼申し上げます。また本学会開催にあたりまして多くの製薬会社その他のご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。

(2009年11月)

# 大会開催のご挨拶

大会会長  
里村  
淳

精神科医療は平成10年頃を境に大きく様変わりしております。わが国の年間の自殺者が3万人の大台に達し、それ以後今日まで、いわゆる高止まりの状態にあります。この背景には、不況をはじめ、世の中のさまざまな変化がみられます。また、その頃から新規抗うつ薬、非定型抗精神病薬といわれる、新しい精神科薬物療法時代を告げる薬剤がぞくぞくと登場し始めました。同時に、それまで精神科病院あるいは大学病院で働いていた精神科医がどんどん開業し始め、精神科診療所開設ラッシュとなりました。地域にクリニックが増えても患者もそれに負けじと増えてきて、今や、精神科医療の中心は入院から外来に完全に移行したと誰もが思っています。それも、入院患者が外来に通院するようになったのではなく、精神科医療ではそれまでみられなかった新しいタイプの患者が受診するようになり、新たな医療構造体を形成するに至ったのではないのでしょうか。かつて「外来精神医学」が強調された時がありましたが、それはあくまでも「入院精神医学」に対する対概念でした。外来通院というと、安定している患者が通っているとか、軽症で治療も楽というイメージがありますが、入院するほどではないにしても難治な経過をとるものが少なからずあり、それに費やされるエネルギーは、かつてわれわれが病院で重症患者を診たのとあまり変わらないものがあります。パーソナリティ障害、解離性障害、慢性の薬物治療抵抗性の抑うつなどです。これらの問題はこれまで、当学会がテーマとして取り上げてきました。

今日の精神科外来でみられる病態を眺めてみると、どれもが現代のストレス社会と無縁なものではなく、精神科外来は「社会の縮図」と言えます。このような観点から、今大会のテーマとして「社会の変化とこころの病」を選びました。ここでいう社会の変化とは、伝統的な価値観や生き方の変化をはじめ、マニュアル化、コンピューター化、さらにはゲームの世界、相手の顔が見えないコミュニケーションの世界などいくらでもあります。それらは現代人のこころに大きな影響を与えていることは疑いの余地もありません。権威の否定による教師と生徒、保護者との信頼関係の低下とそれに関係した教育現場にみられる諸問題、終身雇用などにみられる母性原理を中心とした保護的な社会から成果主義(能力主義)などにみられる父性原理を中心とした「格差」社会への変化とそれによる働く者の労働意欲の変化など。さらには行き過ぎた母性原理による、過保護、競争や衝突のない人間社会を理想とする子育てでは、よく言われる「人間関係に弱い」ひとばかりを生み出しているようにも見えます。価値観の多様化など一見、耳触りは良いけれど、結果的には、自分で目標をつかめない若者が増加し、社会に適応できず抑うつの世界に浸り、心療内科の長期通院者となっており、それはかつての精神科病院の長期在院者、いわゆる「沈殿」している患者を想起させます。今大会はこのような社会の変化との関連に注目し、日常見られる問題に向かい合ってみたいと思います。

(2009年11月)



## 第10回日本外来臨床精神医学会(JCOP)学術大会(2010)

大会会長：里村 淳(富士見メンタルクリニック 院長)

大会副会長：石間 祥生(石間クリニック 院長)  
澤 温(ほくとクリニック病院 病院長)

### 実行委員会

委員：鈴木 二郎、石山 淳一、大塚 明彦、赤穂 理絵、五十嵐良雄、市川 光洋、  
市橋 秀夫、砂山秀次郎、関谷 透、高沢 悟、広沢 郁子、藤本 英生、  
堀江 光子、前久保邦昭、松下 昌雄、浅川 雅晴

日時：平成22年2月21日(日) 10:00～18:20(懇親会：18:50～21:00)

場所：東京医科歯科大学 5号館4F 特別講堂  
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45 TEL：03-3818-6111(代)

参加費：会員医師 10,000円、非会員医師 12,000円、パラメディカル 5,000円

10周年記念パーティ：5,000円

## 学術大会プログラム

メインテーマ

### 「社会の変化とこころの病」

総合司会：岡島加代子(オフィス ロブソン)

理事長挨拶 鈴木 二郎(鈴泉クリニック 所長) 10:00～10:05

Opening Remarks 里村 淳(富士見メンタルクリニック 院長) 10:05～10:10

I. 10周年記念講演(30分) 10:10～10:40

座長：鈴木 二郎(鈴泉クリニック 所長)

#### 「日本外来臨床精神医学会(JCOP)設立の経緯とこれから」

松下 昌雄(帝京大学 客員教授・西落合診療所 院長・JCOP顧問、前理事長)

II. 一般演題(発表20分、討論10分) 10:40～11:40

座長：原 隆(宇都宮こころのクリニック 院長)

海老沢佐知江(アルバメンタルクリニック 院長)

#### 1 「精神科領域における漢方治療 —精神科診療所での漢方の取り組み—」

向井 誠(ムカイ・クリニック 院長、大阪市立大学 医学研究科卒後医学教育学)

#### 2 「精神科診療所における代替・補完医療に関するアンケート調査(第1報)」

高沢 悟(TSメンタルクリニック 院長)・市川 光洋(御茶ノ水医院 院長)

—昼休み(11:50～12:30)—



---

総 会(代議員で構成—オブザーバーの参加も可) 11:40~12:30

理事長挨拶：鈴木 二郎

議 事：議長(大会会長)、議事録署名人選出

平成21年度事業報告(案)・収支決算および財産目録(案)

平成22年度事業計画(案)・収支予算(案)・次期大会会長指名、他(事務局長)

---

### Ⅲ. 会長講演(60分)

12:30~13:45

座 長：鈴木 二郎(鈴泉クリニック 所長)

「日本人論からみた、対人恐怖症と森田正馬」

里村 淳(富士見メンタルクリニック 院長)

---

### Ⅳ. 特別記念講演(60分)

14:00~15:15

座 長：里村 淳(富士見メンタルクリニック 院長)

「DSM-V、ICD-11に向けた精神科治療

ストレス・脆弱性モデルからレジリエンスモデルへ」

加藤 敏(自治医科大学 精神医学教室 主任教授)

---

### Ⅴ. シンポジウム(発表各30分)

15:30~18:15

テーマ：「時代の変化とこころの病」

座 長：高沢 悟(TSメンタルクリニック 院長)

広沢 郁子(メンタル神田クリニック 院長)

1 「平成生まれの子どもたち ~スクールカウンセラーの立場から~」 15:30~16:00

有馬 和子(臨床心理士、ちば女性と子どものサポートセンター 所長)

2 「感情障害などによる休職への対応」 16:00~16:30

石井 一平(石井メンタルクリニック 院長)

3 「認知症医療の変化 —世話される人にマネジメントから、生きる人の支援へ—」 16:30~17:00

斎藤 正彦(翠会和光病院 院長)

指定討論(10分) 17:10~17:20

三家 英明(三家クリニック 院長)

総合討論(50分) 17:20~18:10

---

Closing Remarks 澤 温(ほくとクリニック病院 病院長・次期大会会長) 18:10~18:20

---

### Ⅵ. 10周年記念パーティ

18:50~21:00

場 所：東京ガーデンパレス 天空の間(2F)

司 会：浅川 雅晴(浅川クリニック 院長)・赤穂 理絵(都立駒込病院 神経科)

理事長挨拶：鈴木 二郎(鈴泉クリニック 所長・J-COP 理事長)

来賓挨拶

乾 杯：関谷 透(初台関谷クリニック 院長)









### Ⅲ 会長講演

## 日本人論からみた、対人恐怖症と森田正馬

里村 淳(富士見メンタルクリニック 院長)

対人恐怖症は「ひとまえ」での自己のあり方をめぐる不安を基礎に、さまざまな亜型がみられ、わが国特有の疾病とされてきた。しかし、近年、諸外国にも類似の症状を呈する患者が少なくないことがわかり、世界的に注目されるようになり「social anxiety disorder」なる疾患単位が確立し、対人恐怖症はその中に包摂されるようになった。また、対人恐怖症は国民性や日本の文化・社会とも密接な関係があると言われてきた。日本人は人間関係に過敏であるばかりでなく、自国の国民性にこれほど関心がある国民はいないと言われていた。そこで、明治以来連綿と続いている、日本人による国民性論(つまり日本人論)を概観してみると、国民性論そのものよりも国民性論のあり方にまた日本的な特徴がみられる。それは、外国人とくに欧米人に対して、自己批判、反省、自己否定、それとは逆に自己の肯定、優越の二極の間を行き来し、欧米人の絶対的自己に対し、相対的自己と思われるような自己像を呈する。そこに、対人恐怖症の心性と密接な関係がみられる。

森田療法は欧米の精神療法と比べると独特である。そう思わせるものは何か。それは、精神療法という医学的側面の他に、森田の「あるがまま」という思想を柱にした求道(くどう)性であり、その非医学的あるいは医療を超えた側面がそうさせているのではないか。しかし、その森田の「あるがまま」思想は、わが国の国民性論の流れの中で、どの段階で出てきたものなのか。そもそも、森田の思想は彼独自のものであるのか。それについて検証してみると、決して彼独自のものではなく、わが国では普遍的なものであることがわかる。まず、本居宣長をあげることができる。宣長は18世紀を代表する国学者として、また、哲学者、医師として知られているが、彼が提唱した「漢意(からごころ)」、「やまごころ」、「もののあわれ」は、「事実唯真」、「柳は緑、花は紅(くれない)」、「はからいごと」などの森田用語を想起させ、森田の「あるがまま」思想と共通の特徴を見出すことができる。

このように、対人恐怖症を国民性論から、また、森田正馬をわが国の思想史の中での位置づけについて検討したい。









V-3 シンポジウム

認知症医療の変化

—世話される人にマネジメントから、生きる人の支援へ—

齋藤 正彦 (翠会和光病院 院長)

1988年、論者が初めて都立病院の痴呆性疾患専門病棟(当時)の担当医となった頃、患者の大部分は、診療を受けるという行為自体を認識できず、嫌も応もなく家族や福祉関係者に連れられて医療機関を受診した。1991年に大学病院に移り、98年に退職するまでの間に状況は少しずつ変化し、受診のタイミングは早まったが、それでも、患者の多くは、家族に説得されて渋々病院にやってきた。1998年以降、市中の診療所や民間病院で診療を行うようになり、現在、論者の外来を受診する人の中には、認知機能の僅かな変化に疑問を持ち、自ら精査を求め、対応を模索して受診する人が少なくない。今日、認知症医療の在り方は、介護される客体をいかにマネジメントするかといった姿勢から、認知機能の障害があっても、自らの意思で生きていこうとする主体をいかに支援するかというところにその力点を移しつつある。こうした時代の変化と認知症医療の変化について論じる。

## 第10回日本外来臨床精神医学会学術大会 後援団体一覧

社団法人) 日本精神神経科診療所協会

社団法人) 日本精神科病院協会

一般社団法人) 日本臨床心理士会

社団法人) 日本作業療法士協会

社団法人) 日本精神保健福祉士協会

日本精神衛生学会

日本精神保健看護学会

平成21年12月15日現在

## 第10回日本外来臨床精神医学会（JCOP）学術大会

---

発行：日本外来臨床精神医学会

〒263-0031 千葉県千葉市稲毛区稲毛東 3-20-11-3F

TEL&FAX：043-301-0821

E-mail：10jcop200221@otsuka-clinic.org

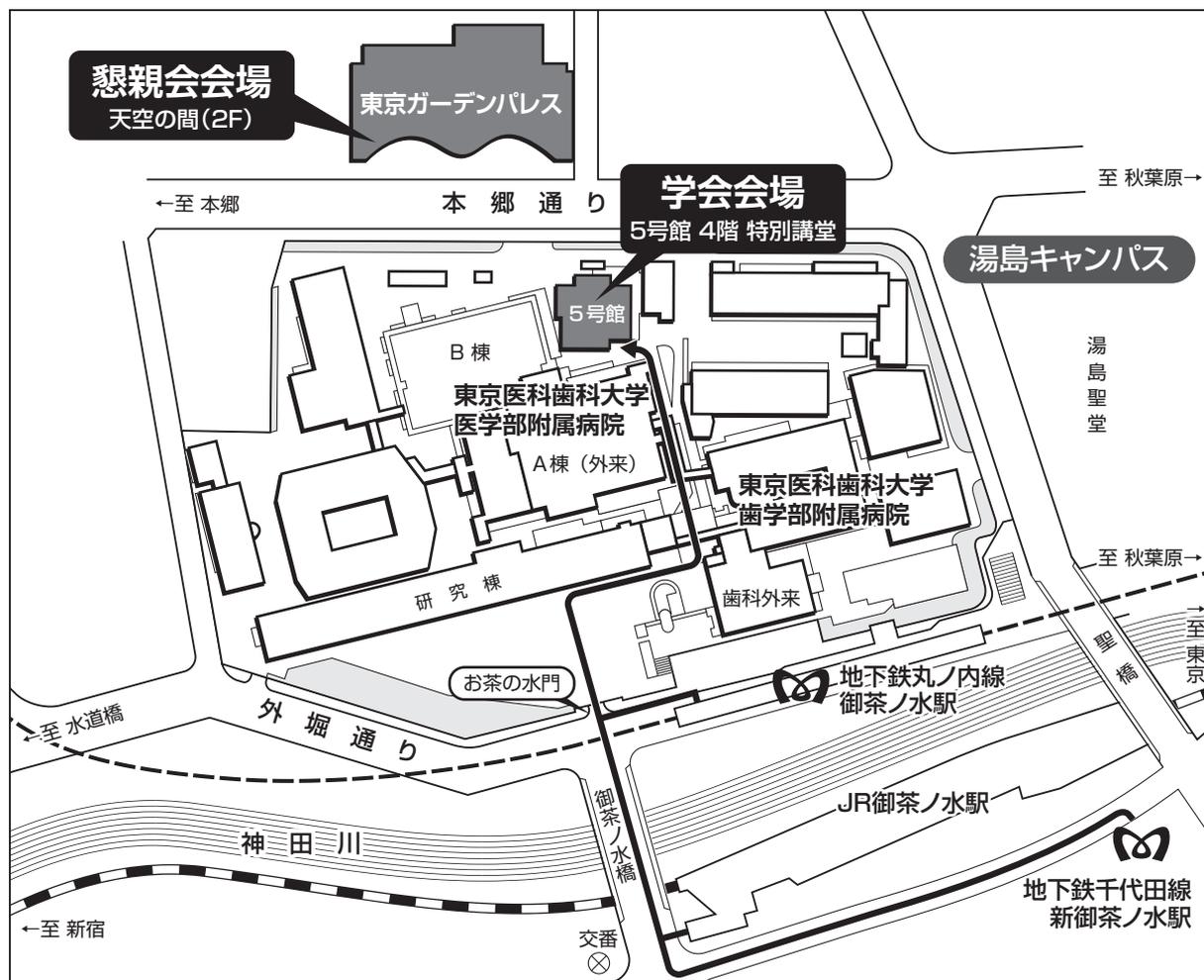
HP：http://jcop.xsrv.jp/

出版： 株式会社セカンド  
http://www.secand.com/

〒862-0950 熊本市水前寺 4-39-11 ヤマウチビル 1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

## 会場のご案内



### 会場までのアクセス

#### ■JR線

御茶ノ水駅下車(御茶ノ水橋口より)  
……………徒歩5分

#### ■地下鉄

御茶ノ水駅下車(丸の内線) ……徒歩2分  
新御茶ノ水駅下車(千代田線) ……徒歩10分

#### ■バス

- 東43系統 都バス(荒川土手操車場—東京駅北口間)  
……………御茶ノ水駅前下車
- 茶51系統 都バス(駒込駅南口—御茶ノ水駅前間)  
……………御茶ノ水駅前下車

## 東京医科歯科大学医学部附属病院

〒113-8519 東京都文京区湯島1丁目5番45号

TEL: 03-3813-6111(代表)

ホームページ <http://cmil2.med.tmd.ac.jp/>



日本外来臨床精神医学会

## 第10回日本外来臨床精神医学会(JCOP)学術大会

---

大会会長：里村 淳（富士見メンタルクリニック院長）

主 催：日本外来臨床精神医学会

〒263-0031 千葉県千葉市稲毛区稲毛東3-20-11-3F

TEL&FAX：043-301-0821

E-mail：10jcop200221@otsuka-clinic.org

HP：http://jcop.xsrv.jp/